



外国人参加者も多く、
当初の予定通り国際的要素
も得られた。
アメリカ人を初め
オーストラリア、アフリカ
ブラジル、スペインなど
色々な国の人に参加して
くれた。



当日は天気も良くてたくさんの方がイベントに参加してくれた。

特設ドームは2メートル四方、プラスチックの骨組みに布をかぶせてつくったテント。中には鏡を設置。鏡をテーブルにしてその上に透明シートをかけた。参加者にはその上にマジックでメッセージを書いてもらった。

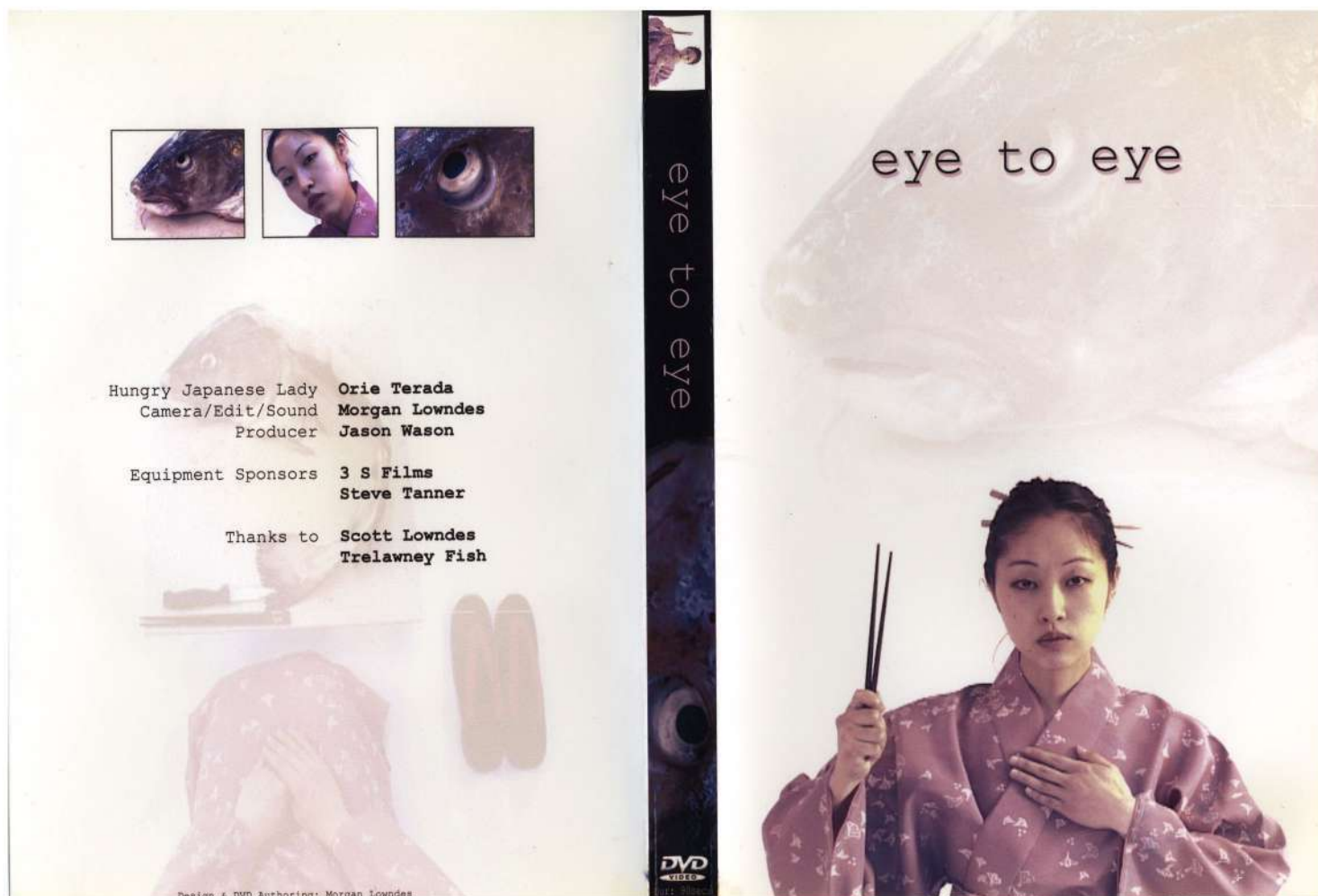


ドームの中ではヘッドホンをつけてもらい、鳥の声を流した。鏡に映った青空の上に思う存分に書いてもらった。





作品にパフォーマンス性が出てくると同時に、本来の陶芸のあり方、表現、というより自分にとって陶芸とは何か？自分と陶芸との関わり、などを探るようになる。その関係性の中で“自分が日本人であること”を強く意識し始める。



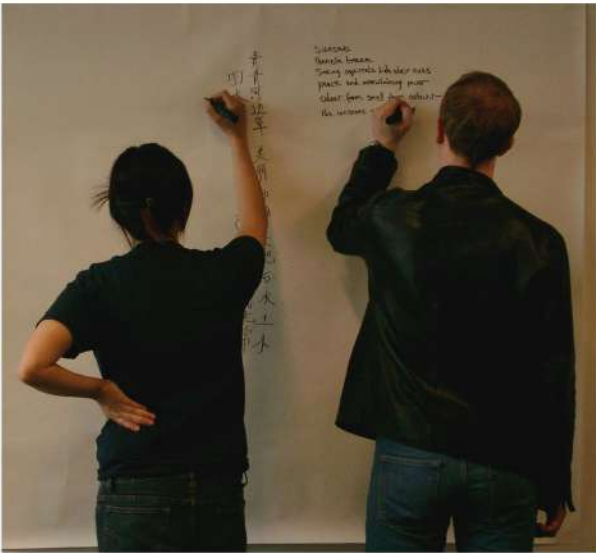
“eye to eye”

2004, DVD 90秒

日本人の自分にとっては最高のご馳走である“魚のお頭”だが、イギリスではグロテスクなものでしかない。

そんな文化の違いから起こる価値感の違いをテーマにした作品。

イギリスの友人とのコラボレーション作品。



青青可近草 夫月 妙物 天把 石水 土木
 卯水 月 太阳 然 五 色 天 气 无 常
 自然 不 大 意 天 阳 旦 暮 日 出
 身 窗 外 今 天 天 气 好
 处 处 野 风 无 脸 很 油 冷
 生 老 病 死 地 油 冷
 果子 狼 子 静 沙
 我对 大 自 然 没
 感 大 大 兴 趣

Senses
 Genzhi bronze
 Spring appears like silver moss
 pink and sparkling pure
 color form smell from color—
 the universe
 the universe, possibility of retaining
 all data in form, natural color and form
 mushrooms and fungus all moss found
 repetitive process of erosion and replacement
 on the beach, repetitive process, color and form
 Seasonic snow as a covering, crunchy, clear
 layer no you no show, colour form, and smell
 expanse of green expanse of water, peaceful aspect
 of which expanse of sky, a single shade of grey
 erosion, decay, removal, naked, deep of red colour
 and form, days, hours, once, separate, every, glass
 of wind, harvest, seasonal, principle, fish, lighting
 walking in a forest, branching colour and form, a
 repetitive process, consistent, branching, context

私 は 自 然 の 中 に 固 ま っ て 居 る 時 が 好 き で
 す。 花 木 緑 風 水。 小 さ い 時 は
 キャンプ 行 っ た 事 緑 に 固 ま っ
 て 食 べ た あ に ぎ り。 青 空
 真 白 な 雲 が 青 い 空 に
 う か ん で い る の が
 好 き の が
 天 空

Η
 Ψυχή
 Οταν βρισκόμαστε
 στην φύση, ζειν
 τα πάντα, γιατί με μαγειρ
 από την ομορφιά της και την
 αγριότητα της. Με κάνει να
 χινομαι ένα με αυτή. Με κάνει
 να δειν να τρην ζεστασία μες της
 σαν τα αγγια ζην που τρηνβαίει. Τα φύλα
 τα σίτηρα του κυματίζουε σαν ουρανο
 και το κελανόηνα των πουλιών που αυτλαίηται
 μέσα των φύων, φερνουρα, μία ζεστασία
 και μία ησυχία σαν να είη ηω.



イベント“Love Letter”の習作
 2004, 写真とビデオで記録

国籍の違う二人で並んで、自分の国の文字で
 同じテーマについて書いてもらう。
 お互い邪魔にならないように、左利きの人と右利きの
 二人を選んだ。

外国でのコミュニケーションで、自分と相手の間にある言葉や文化の違い、
 そして国の違いを超えた共通なもの、
 その中で意識する相手との距離や間合い、
 そんなものに興味を持つようになる。

展覧会 「Table Manner(s)」 2007年12月27日 お茶会パフォーマンス
イギリスの紅茶と日本の煎茶でのお茶会



展覧会 「Table Manner(s)」 2007年12月8日 Skypeパフォーマンス
ビデオ電話を使った、イギリスと日本でのお茶会







AICHI BANPAKU 2002年 インスタレーション

コラージュ(ラミネート、和紙、ネット、葉をモチーフにドローイングしたもの)を壁に配置。
 コラージュを購入した人にピンクの紙を渡す。紙に万博に対する想い、意見を書いてもらい、コラージュのあった位置に差し替える。

2005年に行われる愛知博覧会。賛否両論ある中、開催が決定されました。それまで注目していた私達も、テーマ“自然との共生”とは裏腹に目の前で山が切り崩されている現状を、どこか他人事のように眺めているような気がします。開催が決まった今、私達は現実を受身でなく、前向きに捕らえ、積極的に応えていくべきではないでしょうか？私われた犠牲に酬いるよう万博の本当の意味での成功を目指し、楽しむ事こそ地元市民の私達に求められている事だと思えます。コラージュは瀬戸の自然から葉っぱなど採集し、構成したものです。ピンクの紙にあなたの万博に対する想いを寄せて、美しく彩ってください。

(参加者へのメッセージより)



ドローイングは100枚あまり、展示二週間後完売。全てピンクにかわった。終了後、集まったメッセージは瀬戸市市役所の博覧会協会へ提出した。

寺田康雄版画展 企画 ロンドン三越にて

ロンドン、ピカデリーにある三越レストランにて、陶芸家寺田康雄の陶器、版画併せて20点程による展覧会を企画。一ヶ月間の展示では、レストランとしての機能的要素を考慮しつつ、展示会場を人と作品を結びつける空間として意識し、空間全体の演出を図った。

この度、陶芸家である寺田康雄の作品としてあえて版画を紹介する事は、陶芸の伝統を継承しつつも概念を取り払い、様々な方向から自らの陶芸を追い求める彼の精神を表す最たる例となるであろう。陶器にとつて食を彩るといふのは元来、陶器にとつて至極重要な要素である。陶器の粋を越え、いかにして食を彩るか三越レストランの日本の味を、舌だけでなく五感でお楽しみ頂けたら最高です。



寺田康雄

Yasuo Terada

In search of perfection in the tradition of ceramic art, artist Yasuo Terada has altered the concept of his art and is working on lithography prints as a means to look into his work from a different angle.

An important principle of ceramics is the decoration of meals on the table and Yasuo Terada has challenged himself to do this without the usual framework of ceramics.

Please enjoy the substantial Japanese dishes of Mitsukoshi restaurant and the work of Yasuo Terada not only with your mouth, but with all of your senses.

アンデルセン公園でのパフォーマンスの様子



パフォーマンスのお米は船橋市の
芦田景子さんから購入。

会場に敷き詰めた14畳の畳は
地元で「畳リサイクル」を推進して
いる伊藤新作さんの協力で実現した。





パフォーマンス

“おにぎりパフォーマンス”

2005, University College For The Creative Arts
イギリス



日本独特の食べ物である おにぎり。
それを異国の人が食べる姿は 違和感があって面白かった。

人がものを食べる姿は美しい。
食べているとき、人は無防備で裸になる

おにぎりを手渡すと、そこから会話が始まる。
何の変哲も無いご飯の塊が、特別なものになる。
そして特別な瞬間が生まれる。





右下は観客が食べたおにぎりのゴミをビニールシートの上に集めたもの。皆が参加してくれた証として美しく残った。





"A handful of Rice"
2005, DVD 18分

おにぎりパフォーマンス



“A handful of Rice”

2005, DVD 18分

画面を2つに分割。左がイギリスでおにぎりパフォーマンスをした時の映像。

右が日本での映像。



イベント「土鍋でおにぎり」
2009年
越後つまりトリエンナーレにて





銀座でのおにぎりパフォーマンスの様子
2007年、2月





山梨県甲府市 朱宮佛具店での展示 「人と人 結ぶ おにぎり」 2026年2月6日～6月6日



2005年9月17日
樹木の映写夜



豊田市美術館敷地内の「物見台」で、野外ビデオアート上映会「樹木の映写夜」を企画。約70名が参加し、月を背景に18本の短編作品を鑑賞した。作品は愛知万博のテーマに沿い「自然との共生」「国際性」を軸にロンドンのギャラリーを基盤に収集。会場となった物見台（川俣正作）のスケールを体感しながら鑑賞することで、作品の印象を強めた。上映前後には解説と質疑を行い、観客の理解と考察を深めることを目指した。空間・自然・映像・対話を組み合わせた芸術体験の創出を目的としたイベントである。





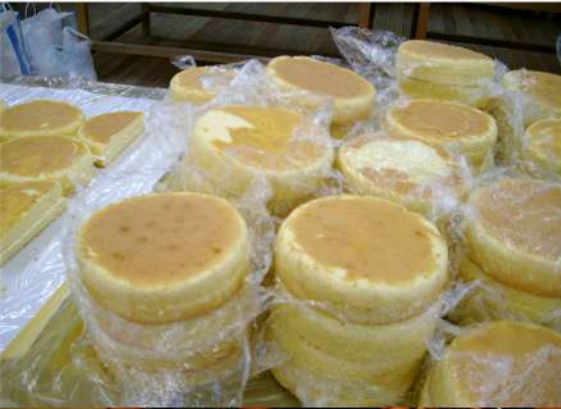
愛知万博支援イベント “セト・マウンテンケーキ”

2003年9月27日

巨大ケーキは万博開催地である瀬戸市で起こっている自然破壊、削られた山を表現したものである。イベントは新聞にて宣伝し、集まってもらった人々に食べてもらった。

イベントコンセプト

万博開催まで後2年、どんな催しになるか期待に胸膨らませる一方、目の前でおこる環境の変化に戸惑い、万博のテーマである“自然との共生”とそこで絶えず起こりうる自然破壊との矛盾、を改めて考えさせられます。万博成功へのカギは、その避けられない自然破壊と正面から向き合う事だと思います。その上で皆が共有できる楽しさを創り上げることが大事なのです。私が考える万博の意義は、2005年に行われる万博そのものというよりは、むしろそれまでの経緯にあります。万博開催に向けて私達市民の一人一人が“自然との共生”というテーマを考え、“自分達がやるのだ”、という積極性を育てていく事が大切であると思います。



イベント内容

“The Seto Mountain Cake” は会場に来ていただいた皆さんに、瀬戸の削られた山を表現した巨大なケーキを食べていただく市民参加型イベントです。崩れていくケーキは無くなっていく瀬戸の山を思わせ、自分の一匙がケーキの山を壊していく事を実感してもらい、瀬戸で起こっている事が、他人事ではない事を感じてもらいたいです。また、“食べ物を分かち合う”という人間の最も基本的な共有方法を用い、イベント会場に訪れた人々に一体感を味わってもらいます。ケーキという大多数の人が魅力を感じるおやつ、それを分かち合う事で喜びを共有します。

日時： 9月27日 PM3:00~PM5:00



セト マウンテン ケーキ の食べ方

- 1、瀬戸の山を想像する。
- 2、どのように山を切り崩すか考える。
- 3、おいしく食べる。
- 4、自分が使ったスプーンフォークをナプキンで拭いて、所定の位置に置く。



当日は300人あまりの人が集まり、イベントに参加してくれた。



2時間後、ケーキは見事に食べ崩された。



北京でのおにぎりパフォーマンスの様子

2006年、8月

